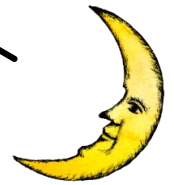




図書館員が選ぶおすすめの本

～中学生向け～



「チョウはなぜ飛ぶか」

日高敏隆 // 作 岩波書店



作者は少年時代にある疑問を抱きます。それは「なぜアゲハチョウは同じ道を飛ぶのか」ということ。少年は、あの手この手でその謎を解き明かそうとします。それはチョウのさらなる謎につながっていき・・・。「なぜ」から試行錯誤し、解き明かしていくおもしろさが伝わってくる一冊です。

「イクバルと仲間たち」

児童労働にたちむかった人々

スーザン・クークリン // 著 長野 徹・赤塚きょう子 // 訳 小峰書店



世界には、あまりに貧しく、家族を助けるために厳しい労働をしている子どもたちがいます。そんな状況に、勇気を出して戦った、少年イクバルの本当にあったお話です。

「詩のころを読む」

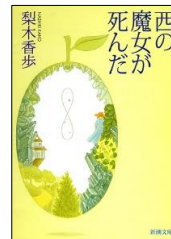
茨木のり子 // 著 岩波書店



詩人である著者が選りすぐった「ことばの花々」「恋唄」「生きるじたばた」「峠」など5つのテーマに分け、詩の魅力について情熱をこめて語った一冊。あなたの心に響く一編がきっと見つかることでしょう。

「西の魔女が死んだ(新潮文庫刊)」

梨木香歩 // 著 新潮社(楡出版版、小学館版もあり)



中学に進学してすぐに学校へ行けなくなった少女まいは、田舎に住むおばあちゃんのもとで暮らします。そこでまいは、おばあちゃんから魔女の手ほどきを受けるのですが、その修行の内容は早寝早起き、適度な運動といった規則正しい生活を送ることです・・・。

「妖怪アパートの幽雅な日常1」

香月 日輪 // [著] 講談社



さあ、新しく高校生活が始まると喜んだ矢先、入る予定の寮が全焼。代わりにみつけたアパート、これが出るんです、妖怪が！！俺の、妖怪たちとの暮らし。続きが10巻までと、外伝もあるよ。

「夜間中学へようこそ」

山本悦子 // 作 岩崎書店



「小学校と中学校って、義務教育でみんな行ったんじゃないの？」優菜の驚きをよそに、おばあちゃんはこの春から夜間中学1年生。おばあちゃんの中学生生活と関わりを持つうちに、優菜も自分を見つめ直していきます。

「宇宙への秘密の鍵」

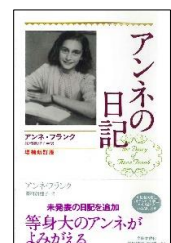
ルーシー&スティーヴン・ホーキング // 作 さくまゆみこ // 訳 岩崎書店



ジョージは偶然、隣の家に住む科学者エリックのもとを訪れます。実はエリックは、宇宙空間への扉を開くことができるコンピュータ・コスモスを開発していたのです！ジョージはエリックの娘・アリーに連れられて宇宙に飛び出しますが・・・。ドキドキハラハラしながら読んでいるうちに、宇宙のことがよくわかる、冒険物語。

「アンネの日記 増補新訂版」

アンネ・フランク // 著 深町眞理子 // 訳 文藝春秋



ナチスの迫害から逃れるため、家族とともに屋根裏部屋に隠れ住んだ少女アンネの2年間の日記です。食べ物やトイレといった日々の暮らしから母への反発、さらには恋愛にいたるまで、一人の少女のありのままの姿がつつられています。

※対象年齢は目安です。

